

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北陸)		-	-	-
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・どの店でも売上が前年を下回らなかった。そのくらいの購買力があつた。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・先月に続き1月度売上高についても、前年実績をぎりぎりキープする見込みである。特に富裕層によって、物故巨匠作家の絵画や高級輸入時計の動きが堅調に推移し、全体をけん引している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・1月に入ってから今まで買い控えとなっていたが、セールスタートと同時にまとめ買いが多く見られるようになった。地区限定のプレミアム商品券の投入により、月の前半は商品券を使つての購入が目立った。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・月初から来客数が多くなっている。客からは、他メーカーの車種との比較を多く尋ねられる。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・1月の販売量は、前年同月比117%の見込みである。3か月前の販売量は前年同月比で93%であったので、上向きである。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・春休みの個人旅行を中心に問い合わせが入ってきている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・朝方はホテルから出る人、夕方は繁華街に行く人といった具合に、利用客はけっこう多い。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・例年は閑散期であるが、数か月前から継続して新規加入やサービスの増設が好調である。特に、インターネットや電話の通信系サービスの契約が好調である。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・例年に比べて、学生向けの購入が早い傾向にある。来客数が通常より多くなった。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅ローンの低金利を背景に、客の動きが活発化している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候に左右される、例年どおりの状況である。雪などによって客足が鈍る。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	お客様の様子	・客単価は相変わらず低く、客は必要最低限の購入にとどまっている様子である。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・月の前半は足元が良く、集客は多く堅調に推移した。後半に入りゲリラ豪雪があつたが、重衣料や長靴、暖かい肌着などの動きが増えた。久しぶりに前年比の実績を達成することができた。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・競争が激化しており、相変わらず来客数は微減の状態である。しかし、買上点数が増加しているため、客単価はアップしている。売上は前年並みになっている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・競合店の出店、改装等によって、また特売日によって来客数の上下はあるものの、既存店舗は昨年並みの来客数、買上点数であり、販売量は変わっていない。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・来客数が前年割れのままで、上がることもないが下がることもない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・当店はイベントに依存する立地であることから、1月に限れば週末のイベント日に雪がたくさん降つたことで、数字は落ち込んでいる。そのほかの面では変化はみられない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・以前から品数を増やす取組を続けている。しかし、客の買上点数は3～4か月前から高止まりしており、それ以上に伸びていない。また、1点買いや目的買いの人が多く、来客数が増えていく状態ではない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・当店で、今年の目標を前年比で何とか維持しているところである。良くやっている状態といえる。現状の中では、これでよしとしなければというところである。
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・雪が降ると来客数が減少する。天候の影響をカバーできなかった。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今年に入り、正月は好天で客足が伸びて売上も上昇した。中旬以降は大雪もあり、また水面下に沈んでしまった。	
	衣料品専門店（総括）	来客数の動き	・昨年より客単価は下がっている。買上客数は増えているため、何とか昨年を超えることができてきている状況である。ただし、昨年が悪すぎるといった点もあるため、楽観はできない。	
	家電量販店（店長）	来客数の動き	・正月の初売りは昨年より良かったが、雪の影響で来客数は減っている。	

家電量販店（本部）	販売量の動き	・天候要因を除けば、前年比は横ばいである。
乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・自動車販売業界は、世間では停滞していると思われるが、登録台数ベースでは前年を上回っている。受注状況も3月に向けて、北陸では年間での最大需要期に向かっていく。各社共に増販に向けて、展示館等のイベント施策を展開している。
自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・初売りセールは、来客数が例年以上に減少した。福袋は高額なものの動きが悪く、安価なものに偏っている。降雪によって冬季用品の動きは良かったが、極力出費を抑えようとする傾向がみられる。
住関連専門店（役員）	お客様の様子	・良い商品を求める傾向にあるため、購買単価の増加がみられる。しかし、絶対的な購買数量の伸びが今一つ見込めない。
その他専門店【酒】（経営者）	単価の動き	・悪い状態が、いつまでも続いている。冬来たりなば春遠からじ、という言葉があるが、冬がずっと続いているような状態である。
その他小売【ショッピングセンター】	来客数の動き	・おせちの予約件数は前年並みだったが、単価がやや低く、売上は前年割れの結果に終わった。初売り期間は天候が良かったため、福袋を中心にまずまずの売上だった。この時期としては降雪が全くなく、防寒衣料や寝具、暖房機器が振るわない。期待したバーゲン商戦は大苦戦となった。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・忘年会に比べるとボリュームは少ないものの、例年並みに新年会を受注できた。もともと1年間を通じて最も季節指数の低い月であるため、例年の数字と比べて大きく変わる要因はなかった。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・地元客の動きがあまりよくない。
一般レストラン（統括）	お客様の様子	・昨年12月頃からは、株高のためか景気が良くなってきたとの声が多かった。しかし、外食需要では単発的な動きしかなく、1か月全体では大きな変化に感じられない。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門や宴会部門は、北陸新幹線開業年度の前年を下回っている。レストラン部門は前年売上を下回り続けていたが、団体利用が増えたため、ようやく前年並みに推移してきた。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は例年より積雪が少なく、足元が悪い日が少なかった。新年会は週末に集中し、平日は人出が少なかった。
通信会社（役員）	販売量の動き	・従来の同軸サービスから、光サービスへの移行を進めている。これに合わせた追加商品の新規契約獲得が順調で、配信世帯の月額料金は毎月、確実に増加している。
通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・現在のところは、来客数に大幅な変化がみられない。
テーマパーク（役員）	来客数の動き	・国内の個人客の動きは、前年比でやや悪い。団体客は前年並みで、海外からの客は増加傾向にある。全体としては横ばいに推移している。
競輪場（職員）	販売量の動き	・年末年始にかけて売上が伸びる傾向にあったものの、1月半ばには既に下降線に入った。3か月前と変わらない売上になっている。
その他レジャー施設（総支配人）	来客数の動き	・見学や体験希望の客はそこそこ見られるが、入会に結びつく件数は少ない。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅を取得するための好条件がそろっているが、まだまだ客の購買意欲が弱い。
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・雪が降り、客の動きが少なくなった。その後は天候が良かったため、問い合わせやイベント来場者は増えた。成約数は例年と変わりはない。
一般小売店【書籍】（従業員）	来客数の動き	・来客数の減少幅が大きい。買い控えの様子もうかがえる。
一般小売店【鮮魚】（役員）	販売量の動き	・北陸新幹線開業効果はさすがに落ち着きだした。平日の暇な日は、開業前に戻ったような状況である。例年の正月明けは暇になるが、今年は例年以上だと感じる。
スーパー（店長）	単価の動き	・購買単価は下落傾向で、購入点数は横ばいである。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・天候の影響もあり、新車や中古車目当ての来客数は少ない。

	その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	販売量の動き	・福袋への反応は良かったが、衣料品専門店では軒並み福袋個数を前年より減らしていた。そのため機会ロスが発生し、全体としての売上が伸びなかった。また、前年に好調だったシネマが通常期の状態となっており、全館の来客数が減っている。さらに、それに伴って飲食店等の売上にも影響が出ている。
	スナック (経営者)	来客数の動き	・当店は年配の客が多い。変遷はあったが、開店以来初めて1月の売上が最悪となった。前年同月の80%の売上、他店同業者も状況は悪いと聞いている。客の中小企業経営者は、米国の新大統領就任による影響でより悪くなるという予想を語っていた。
	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・土日の予約は詰まっているが、平日は集客が悪い。
	観光型旅館 (スタッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上87%、宿泊人数88%、宿泊単価97%と北陸新幹線開業効果は下降気味である。客室稼働率は前年比で10%減少、個人客割合は前年を下回る。しかし、北陸新幹線開業前と比べれば総売上で121%を維持している。
	美容室 (経営者)	来客数の動き	・昨年の秋から、来客数の微減傾向が続く。
	x 商店街 (代表者)	来客数の動き	・正月商戦では、今までにないような高所得者向けの福袋は人気だったが、従来どおりの福袋は売れ残りが目立った。初売りの行列は、例年になく寂しかったように見える。
	x コンビニ (店舗管理)	来客数の動き	・既存店の来客数が、軒並み前年割れしている。大雪もなく、それで前年より悪いということはなかったのだが、苦しい状態である。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-
	化学工業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は増加傾向である。
	一般機械器具製造業 (総務担当)	取引先の様子	・北米、欧州市場共に安定して受注がある。国内市場も若干弱いが安定している。
	一般機械器具製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・海外向けを中心に3か月前と比べて受注が増えている。しかし、材料と人材不足が足を引っ張っており、今後の課題となっている。
	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・一般小売向けの販売量が低調に推移する一方で、業務用向けなど他のチャンネルは比較的好調である。それによって帳尻が合っている状態となっている。
	繊維工業 (経営者)	取引先の様子	・衣料の購買力に勢いが欠けている。また、流通の段階において在庫も増えつつある。
	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・衣料関係の受注では海外、国内共に苦戦しており、受注量が十分に確保できない。
	精密機械器具製造業 (役員)	取引先の様子	・国内の、特に高価格帯市場は依然として、全体に厳しい状況が続いている。百貨店関係の話や聞くと、男性に比べ女性の方が高額商品を買求める傾向があるが、ここへきて出費を抑える動きがみられるようになったとのことである。
	建設業 (役員)	受注価格や販売価格の動き	・受注競争は地域によってばらつきがあるが、特に北陸地域では価格競争が徐々に激しくなっている。受注環境は厳しい状況にある。
	輸送業 (配車担当)	取引先の様子	・米国の新大統領就任による影響で円安方向にあるため、輸出関係は上向き傾向がみられる。しかし、原材料、燃料費等のコストアップにより利益が圧迫されている。
	司法書士	取引先の様子	・新会社設立が多かったが、一方で法人解散も多かった。また、営業譲渡関係の依頼が多かった。
	税理士 (所長)	取引先の様子	・取引先の、特に製造業の受注状況は良くなっているようにみられる。小売業関係は消費者の家計が厳しいため、伸びない状況にある。経営者の話を聞くと、全体としてまだら模様の状態にある。
	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・昨年までは、12月工期の工事を抱えて多忙感があった。しかし、年が明けて手持ち工事は少ない状態である。また、小雪のため除雪作業に出動することがほとんどなく、工事部門は人手が余っている。
	金融業 (融資担当)	受注量や販売量の動き	・1月に入り、公共工事が少なくなった。取引先からの公共工事保証の申込みも少ない。
	不動産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者の情報によると、現在は、購入者が全くいない状況であるという意見が多かった。
	x	-	-

雇用 関連  (北陸)	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で10%を超える増加となっている。新規求職者数は前年同月比で減少しており、雇用環境は改善している。しかし、全体として各産業で人手不足感が広がってきている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・求人広告枠数、金額共に昨年とほぼ変わらない。昨年よりもパート枠が減って正社員の求人が増えた。正社員についてはいまだに充足に至っていない中、パートやアルバイトの募集では、時給1,000円を超えるものが目に見えて増えている。労働者の給与にお金回りつつあるようにみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の産業で求人数が減少したものの、全体的に求人数は増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が3,523人と、前年同月比で12.6%増加している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・平成30年度3月卒業者の求人票の出方が順調である。昨年よりも早く、多く出てきている。また、学内実施の合同企業説明会への参加希望企業数が、昨年と比べて多くなっている。
	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・人材需要は伸びつつあるが、依然として労働者の確保が厳しいためマッチングに苦労している。
	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・働き手は多少いるものの、なかなかマッチングする仕事が少ない。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介の依頼はあるが、登録者は正社員の就業希望が多い。一方で、企業は正社員登用と言いながら、実態は契約社員がほとんどである。応募者年齢が高齢化していることが一因と考える。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べると、求人募集が1回の発行で20件ほど減少している。
	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・1月の求人広告売上は、前年の6割に届かなかった。
x	-	-	-